

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:長久手市地域公共交通会議

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
Nーバス	7路線	前回の評価結果は、公共交通応援隊の活動と公共交通事業者の利用状況報告による情報共有と改善策実施が評価され、平成29年10月の大型店舗オープンによるさらなる遅延の懸念と、大型店舗オープン後も遅延が起きないように関係者との十分な対策を講じることと、市民協働による利用促進策の実施と近隣市町との連携による利便性の高い公共交通ネットワークの構築の期待であった。	A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。	A 利用者数は対前年度比を上回り、目標を達成している。平成23年4月の路線見直し以降、増加傾向で推移している。 【利用者数の目標:対前年度比増加】 平成28年度:655人/日(H27.10~H28.09) 平成29年度:697人/日(H28.10~H29.09)	大型商業施設の渋滞は、土日や特売日などの日において、今後も想定されるため、引き続き、渋滞緩和に向けた取組を継続していく。公共交通の分野においても、公共交通会議の機会を利用し、市民及び交通事業者との情報交換を密に行い、対応について協議していく。
中央循環線右回り(名鉄バス)	市役所~市役所	それに対し、渋滞緩和に向けて、各分野において対策を行い、公共交通の分野では、自動車利用者の公共交通への転換を図るため、パーク&ライド駐車場を県と協力して整備するほか、大型商業施設にリコモ来店者へのインセンティブ付与を行うよう依頼した。また、長久手市地域公共交通会議においても、市民利用者及び各交通事業者から、周辺の道路状況等の情報提供をいただき、解決に向けて意見交換を行った。	A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。	A 前年度の評価対象期間と比べた補助対象路線の利用者数は、対前年度比を上回っている。 平成28年度:103人/日(H27.10~H28.09) 平成29年度:126人/日(H28.10~H29.09)	平成29年に実施した尾三地区内の住民及び拠点施設のアンケート結果を踏まえ、関係市町や交通事業者と連携を図り、尾三地区広域公共交通網の検討を行っていく。また、尾三地区の公共交通利用促進策として、Google路線検索を可能とするバスデータのGTFS化を実施する。
中央循環線左回り(名鉄バス)	市役所~市役所	民間バス事業者と連携して長久手古戦場駅と愛知医科大学病院を乗継拠点として南北に広域幹線軸が構築され、守り育てていく期待に対しては、尾三地区内において、各市町の拠点施設を中心とした南北へ向かう公共交通軸の形成に向けて、関係市町と連携し、尾三地区内の住民及び拠点施設においてアンケート調査を行った。長久手古戦場駅及び愛知医科大学病院では、ターミナル化に伴い、民間バス事業者の路線新設と増便、待合環境等を快適にし、利便性が向上した。	A 平成23年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。 平成28年4月1日のNーバスの路線見直しにより、三ヶ峯線早期便は廃止し、三ヶ峯線福祉の家発便は三ヶ峯線として運行システムを一体にした。	A 前年度の評価対象期間と比べた補助対象路線の利用者数は、対前年度比を上回っている。 平成28年度:106人/日(H27.10~H28.09) 平成29年度:120人/日(H28.10~H29.09)	交通結節点と位置付けている長久手古戦場駅及び愛知医科大学病院では、名鉄バスをはじめ、Nーバス、隣接市町のコミュニティバスが接続しているため、待ち時間短縮などの移動利便性を確保するため、関係者と調整を図る。
三ヶ峯線平日便(名鉄バス)	市役所~市役所		A	A 前年度の評価対象期間と比べた補助対象路線の利用者数は、対前年度比を上回っている。 平成28年度:86人/日(H27.10~H28.09) 平成29年度:87人/日(H28.10~H29.09)	
三ヶ峯線土休日便(名鉄バス)	市役所~市役所		A		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

平成30年 1月30日

協議会名:長久手市地域公共交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
【事業内容及び結果概要を記載】	A ・ B ・ C 評価	【事業が適切に実施された(されている)か記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由を記載。】	【事業の今後の改善点として、取組内容・関係者それぞれが果たすべき役割等を記載。】
公共交通マップの作成	A	計画どおり適切に事業が実施されている。	公共交通マップは以下の5点を念頭に置いて作成した。 ①誰にでも分かりやすくする、②行政界を超えた移動についても記載する、③主要な施設が一目で分かるようにする、④交通結節点に重点を置いたマップとする、⑤スマートフォンで各公共交通の時刻表が検索できるようにQRコードを掲載する 平成29年12月に完成した公共交通マップは、主要公共施設に配布するとともに、市HPや自治会回覧などを行い、周知を図った。 今後は順次更新を行い、市民の方が日頃から活用できるよう、引き続き周知を行っていく。
公共交通利用実態調査	A	計画どおり適切に事業が実施されている。	市民アンケート調査は4,000部の郵送配布を行い、回収にあたっては平成29年10月6日を回収期限としてリマインド葉書を送付し、回収率はH25実施時の35.4%から今回は50.1%に向上した。 今後はアンケートの内容を分析し、長久手市地域公共交通網形成計画の評価をするとともに、次期形成計画の策定に向けてアンケートから見える課題の整理を行う。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年 1月30日

平成30年 1月30日

協議会名:	長久手市地域公共交通会議
評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市は愛知県名古屋市の東側に位置し、人口約57,000人(平成30年1月1日現在)で現在も増加を続けている。</p> <p>本市は通勤通学流動の面では名古屋市との結びつきが強く、市内の公共交通網は、軌道系のリニモが東西方向の移動軸として、市域を横断し、民間の路線バスが名古屋市内の地下鉄駅、市内の主要施設、周辺の大学など、市西部地区の移動軸として、東西方向の移動に対応した路線網となり、隣接市町の境界をまたいでいる。また、市営のコミュニティバス(Nーバス)が、民間のバス路線を補完する形で市内の移動の足を確保するため、面的にカバーする路線網を形成している。</p> <p>リニモの長久手古戦場駅と公園西駅付近において土地区画整理事業が進んでおり、駅隣接地における大型商業施設の完成に伴い、更なる人口増加や交通流動の変化が見込まれるため、自家用車に過度に依存せず、リニモ、路線バス、Nーバスが一体となった使いやすいネットワークをつくり、人がニコニコ笑い、イキイキと暮らす姿を将来像とし、市内公共交通をみんなで育み、よりよい公共交通の実現を目指す。</p> <p>公共交通ネットワークは移動ニーズに合わせて展開し、市内外への移動拠点となる交通結節点への移動利便性の向上を目指しながら、公共交通とまちづくりとの連携を図り、将来の公共交通ネットワークの形成を進める。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

【平成29年度分】

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

参考

提出者:愛知県バス対策協議会

平成30年1月10日

補助対象事業者等		事業概要		前回の事業評価結果の反映状況	事業実施の適切性	目標・効果達成状況	複数市町村を跨ぐ系統としての役割	幹線系統としての役割	事業の今後の改善点(特記事項を含む)
運営主体	運行事業者	系統名	運行区間						
名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	日進中央	赤池駅～長久手古戦場駅	再編実施計画に基づき経路の変更、事業者路線化を行った。再編周知のため鉄道との乗継情報を記載したバス路線図、時刻表を作成し、公共施設や商業施設等で配布した。運賃を事業者の運賃制度にし、運行時間帯の拡大を行った。また、住宅情報誌に路線のPR特集を掲載して、新たな転居層にPRを図った。	A 補助対象期間の開始日から、事業計画通りの運行が実施されている。	A 補助対象期間における利用者数は87,892人であり、目標利用者数72,429人に比べ121.3%となり、目標を達成できた。前年度比でも、121.3%で増加している。事業者路線化に伴い運賃が均一性から対キロ区間制に変更になり多くの区間で値上げになったため利用者の逸走が懸念されたが、運行本数の増、運行時間帯の拡大するなど利便性が向上したことにより、比較的短距離の利用が底上げされたこともあり、再編前より利用者が伸びている。	日進市と長久手市を跨ぐ利用者は、19.7% 1,632人/月と推定されるが、赤池駅、長久手古戦場駅の南北2か所の交通結節点を結んでおり、広域的な路線としての役割を果たしていると考えられる。対キロ区間制に変わったことにより遠距離利用が減少する傾向があるが、大型商業施設の新設により近距離ながら日進市と長久手市を跨ぐ利用が相対的に多くなっている。	<広域的・幹線の系統> 愛知高速鉄道東部丘陵線 名古屋市営地下鉄鶴舞線 名古屋鉄道豊田線 名鉄バス、豊田みよし東郷方面、豊明方面各線 <地域的・フィーダー的系統> くるりんばす全線 Nーバス中央循環線	毎時1本の運行のため、遅延による運行への信頼性を失うと利用者が離れてしまうので、沿線に新たに立地する大型商業施設に起因する交通渋滞の影響を最小限に食い止める施策の実施を検討する。乗換サイトへの情報提供、時刻表・バスマップの配布、バスロケーションシステムのPR等の周知活動を行うとともに、商業施設開業にあわせた公共交通利用の呼びかけを行う。
尾張旭市	豊栄交通(株)	尾張旭市営バスあさび一号(東ルート)	市役所～イトーヨーカドー前～市役所	平成28年4月の運行内容変更後遅延が生じていたことから遅延調査を行い平成29年1月にダイヤを改正した。その結果遅延が大幅に減少した。瀬戸市、長久手市は市民アンケートを行い市内外の移動ニーズを把握した。	A 補助対象期間の開始日から、運休もなく、所定の事業計画通りの運行が実施されている。	A 補助対象期間の利用者は102,890人であり、目標の85,000人に対して121.0%となり目標が達成することができた。前年度比較では114.3%である。遅延の減少と愛知医科大学バスロータリーへの乗り入れで利便性が向上したことにより利用が増加したと考えられる。	尾張旭市、瀬戸市、長久手市を跨ぐ利用者は、8.6% 1,449人/月と推定され、率は低いが、市境を跨ぐ利用が一定数あり、長久手市にある総合病院、瀬戸市にある商業施設においては、それぞれの市のコミュニティバス、総合病院においては名鉄バスとも乗継ができ、それぞれの施設を利用する方とともに利用されていることから、一定の広域的な路線としての役割を果たしていると考えられる。	<広域的・幹線の系統> 尾張旭市営バスあさび一号(西ルート) 名鉄瀬戸線 名鉄バス尾張旭向ヶ丘線、愛知医科大学病院線 瀬戸市コミュニティバス、長久手市Nーバス <地域的・フィーダー的系統>	平日の遅延は大幅に解消したが休日においては交通集中による遅延が発生している。運行状況を見極め調査分析し必要に応じて対応を検討する。瀬戸市、長久手市においても、隣接市間を移動ニーズに合った公共交通網を検討していく。
		尾張旭市営バスあさび一号(西ルート)	市役所～印場駅～市役所	平成28年4月の運行内容変更後遅延が生じていたことから遅延調査を行い平成29年1月にダイヤを改正した。その結果遅延が大幅に減少した。長久手市は市民アンケートを行い市内外の移動ニーズを把握した。	A 補助対象期間の開始日から、運休もなく、所定の事業計画通りの運行が実施されている。	A 補助対象期間の利用者は112,413人であり、目標の85,000人に対して132.3%となり目標が達成することができた。前年度比較も126.1%となり増加した。遅延の減少と愛知医科大学バスロータリーへの乗り入れで利便性が向上したことにより利用が増加したと考えられる。	尾張旭市、名古屋市、長久手市を跨ぐ利用者は、12.9% 2,385人/月と推定され、率は低いが、昨年度より増加している。長久手市にある総合病院においては、長久手市、瀬戸市のコミュニティバス、名鉄バスとも乗継ができ、それぞれの施設を利用する方とともに利用されていることから、一定の広域的な路線としての役割を果たしていると考えられる。	<広域的・幹線の系統> 尾張旭市営バスあさび一号(東ルート) 名鉄瀬戸線 名鉄バス尾張旭向ヶ丘線、愛知医科大学病院線 名古屋市営バス幹藤丘1、11、本郷11、小幡11、曾根11等 瀬戸市コミュニティバス、長久手市Nーバス <地域的・フィーダー的系統>	平日の遅延は大幅に解消したが休日においては交通集中による遅延が発生している。運行状況を見極め調査分析し必要に応じて対応を検討する。隣接市間を移動ニーズに合った公共交通網を検討していくとともに、公共交通利用促進を行う。
日進市	名鉄バス(株)	くるりんばす北コース	市役所～長久手古戦場～市役所	再編実施計画に基づき、平成29年4月に路線の全面再編を実施。住宅地と長久手古戦場駅とのアクセシビリティを高めた。また、路線の再編の周知活動を行った。	A 補助対象期間の開始日から、計画通りの運行回数が確保されている。	A 補助対象期間における利用者数は64,118人であり、目標利用者数46,076人に比べ139.2%と目標を達成できた。前年度比でも、133.8%で増加している。H29年4月にくるりんばすを再編実施計画に基づき全面的に再編した。全体の再編の中で、当路線は五色園地区等の住宅地と長久手古戦場駅とを結び幹線としての機能が強化された。古戦場駅周辺での大型商業施設の開業効果もあり運賃の増額改定にもかかわらず利用者の大幅増となった。	日進市と長久手市との相互間の利用者は、29% 3,120人/月であり、広域的な路線としての役割を果たしていると考えられる。日進市東部と交通結節点であるリニモ長久手古戦場駅を結ぶ路線として、住宅地とリニモ駅、さらにはその先バスを乗り継ぐことにより愛知医科大学病院へのアクセスを担う路線である。	<広域的・幹線の系統> 愛知高速鉄道東部丘陵線 くるりんばす中央線 <地域的・フィーダー的系統> くるりんばす全線 Nーバス中央循環線	路線再編後も利用者が多い状態が継続している。移動環境の向上と安全性の確保のため、車両の大型化(中型車両化)を行う必要があるため、導入をすすめていく。この地域では相次いで大型商業施設が開業しており移動ニーズの変化が見られることから、沿線市連携し最適な路線を検討していく。

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

長久手市地域公共交通会議

平成20年11月25日設置

フィーダー系統 平成29年8月 確保維持計画策定

【長久手市の地域特性】

- ・市の中心を東西方向にリニモ、市西部を中心に民間の名鉄バスが路線網を形成
- ・市営のコミュニティバス（Nーバス）が市内を面的にカバー
- ・大型商業施設の開業や交通結節点の整備に伴い、交通利用者は近年増加傾向

長久手市地域公共交通網形成計画(平成28年3月策定)

1) 期間:平成28年度～平成30年度

2) 将来像

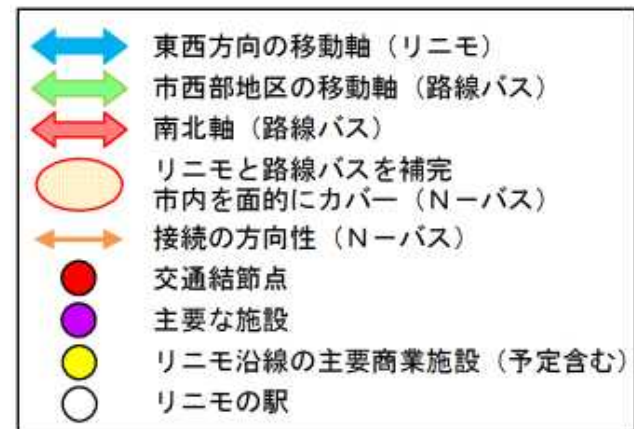
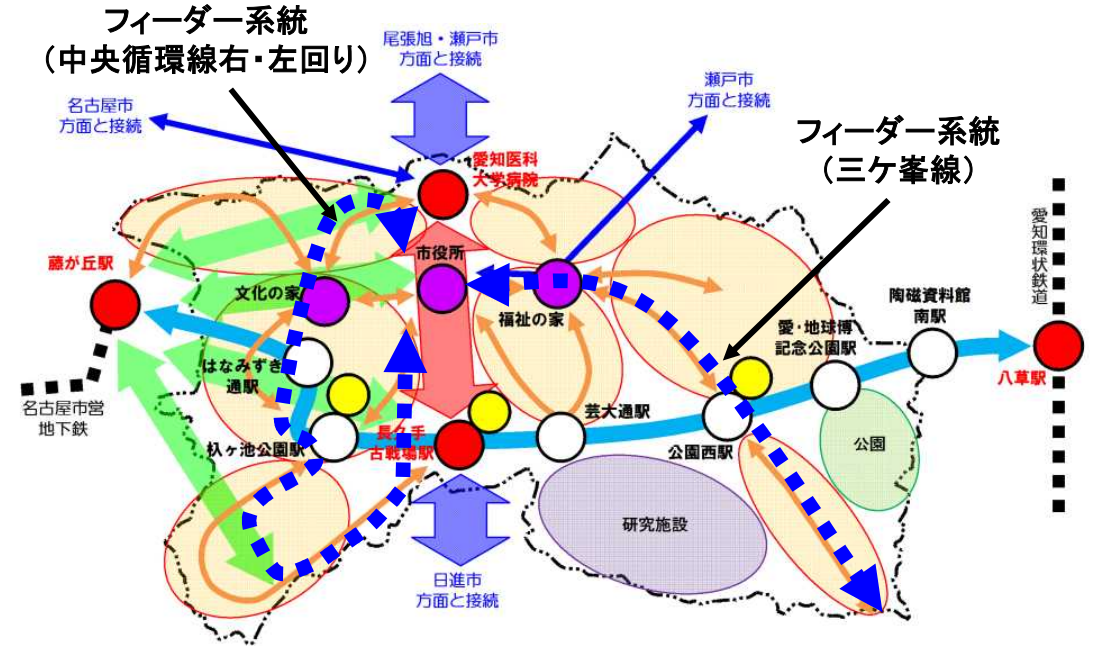
みんながつながり笑顔があふれる公共交通

3) 将来像を踏まえた目指すまちの姿

- ① みんなで育む公共交通のまち
- ② 人にやさしい公共交通のまち
- ③ 環境にやさしい公共交通のまち

4) 基本方針

- I 人々の生活を支える交通移動を提供し続ける
- II 地域ニーズに配慮しながら、互いに連携した利便性の高い公共交通ネットワークをつくる
- III みんなで意識して、環境にやさしい公共交通利用を進める
- IV まちづくりと連携した公共交通体系をつくる
- V 市民とともに、公共交通の利用促進に取り組む



【長久手市地域公共交通網形成計画の評価の考え方】

- ・ 形成計画で取組む事業の評価は、長久手市地域公共交通会議で審議
- ・ 公共交通利用者数の経年変化は、交通事業者の実績報告で経年変化を把握
- ・ 公共交通に関するアンケート調査を行い、事業内容の評価・改善に反映

【生活交通確保維持改善計画(フィーダー系統)の評価の考え方】

- ・ フィーダー系統の補助を受けているN-バスは路線別の評価を実施
- ・ 形成計画の評価指標との整合を図るため、評価期間 (H28.10~H29.9) の対前年度比増加に対する達成度を評価

目指すまちの姿	基本方針	目標	評価指標	現 状
①みんなで育む公共交通のまち	I II IV V	a)公共交通の利用者数の増加	対前年度比増加	リニモ：8,077人/日平均(H26年度) 名鉄バス：2,968人/日 (H26年度) N-バス：645人/日平均(H26年度)
		b)協働での取組みの市民参加意識の向上	「利用促進活動への市民参加の賛同割合」の調査段階ごとでの増加 「利用促進活動の認知度」の調査段階ごとでの増加	65歳未満：65.8% 65歳以上：48.6% 全 体：60.4% ・かわら版の発行：7% ・市HPでの連携計画の公開：10% ・新聞折り込みで見直し記事掲載：16%
②人にやさしい公共交通のまち	I II IV	c)公共交通に対する市民意識の向上	「公共交通利用を第一に考える」割合の調査段階ごとでの増加	65歳未満：12.6% 65歳以上：28.2% 全 体：16.9%
③環境にやさしい公共交通のまち	III	d)公共交通の利用回数の増加	市民の利用回数の回答が「減った」より「増えた」の割合の調査段階ごとでの増加	リニモ：「増えた30.8%」「減った21.1%」 名鉄バス：「増えた20.7%」「減った15.7%」 N-バス：「増えた23.8%」「減った13.6%」

※ 長久手市地域公共交通網形成計画の目標及び評価指標

N-バス			
路線名	フィーダー系統	H27.10/1~H28.9.30実績(人/日平均)	H28.10/1~H29.9.30目標
中央循環線(右回り)	○	103	対前年度比増加
中央循環線(左回り)	○	106	
福祉の家線		62	
西部循環線		154	
藤が丘線		129	
三ヶ峯線	○	86	
東部線・北部線		16	

※ 生活交通確保維持改善計画の目標及び評価指標

実施事業	概要	実績等
広域公共交通網に向けた検討	<ul style="list-style-type: none"> ・尾三地区広域公共交通網の検討に向けて、豊明市、日進市、みよし市、長久手市、東郷町で構成する協議会を設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H29.7 協議会設置（推進会議3回、プロポーザル会合1回実施） ・ H29.11 住民アンケート及び拠点施設調査の実施
大型商業施設の出店に係る渋滞対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ リニモ利用促進のため、大型商業施設及び周辺施設と連携したリニモ利用者へのインセンティブ付与に向けた調整 ・ 大型商業施設、警備会社、警察、行政関係者による渋滞対策会議を実施 ・ 区長会及び自治会回覧で渋滞対応策を周知（イケア） ・ 陶磁資料館南駅をはじめとしたパーク＆ライド駐車場整備に向けた調整（イケア） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H28.12～ リニモ来店者に向けたインセンティブ付与 ・ H29.10 リニモ一日乗車券とタイアップしたインセンティブ付与 ・ （イオン）H28.11～ ・ （イケア）H29.6～ ・ H29.9 区長会及び自治会回覧 ・ H29.10～ パーク＆ライド駐車場の供用開始
その他の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園西駅駅前広場整備に伴うNーバス三ヶ峯線の調整 ・ 長久手市公共交通マップの作成 ・ ※形成計画推進事業 ・ Nーバス年末試行運行に向けた調整 	<p>地域公共交通会議で協議（H29.8）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H29.10～ ルート及びダイヤ変更 ・ H29.12～ マップの完成、周知 ・ H29.12.29、30 試行運行実施

【長久手市地域公共交通網形成計画の評価】

目 標		平成27年度実績 (基準年)	集計期間	具体的な目標	平成28年度実績	集計期間	評価
公共交通利用者数	リニモ	8,593人/日平均	H27.4/1～3/31	対前年度比増加	9,929人/日平均	H28.4/1～3/31	達成
	名鉄バス	2,859人/日	H28.5月実施調査	対前年度比増加	3,013人/日	H29.5月実施調査	達成
	Nーバス	655人/日平均	H27.10/1～H28.9.30	対前年度比増加	697人/日平均	H28.10/1～H29.9.30	達成

【目標達成状況の考察】

- リニモ、名鉄バス、Nーバスにおいて目標を達成。
- 名鉄バスは地下鉄藤が丘駅を中心とした路線網のため、大型商業開店効果の寄与が少ないものと推察すると、外的要因を除いた公共交通利用者が増加したものと推測。
- 目標は達成しているとは言え、名鉄バス及びNーバスにおいては渋滞の影響により利便性が低下。

【生活交通確保維持改善計画の評価】

Nーバス(路線別の評価)				
路線名	フィーダー系統	H27.10/1～H28.9.30 実績 (人/日平均)	H28.10/1～H29.9.30 実績 (人/日平均)	評価
中央循環線(右回り)	○	103	126 (前年比1.23倍)	達成
中央循環線(左回り)	○	106	120 (前年比1.13倍)	達成
福祉の家線		62	56 (前年比0.90倍)	未達成
西部循環線		154	159 (前年比1.04倍)	達成
藤が丘線		129	134 (前年比1.04倍)	達成
三ヶ峯線	○	86	87 (前年比1.01倍)	達成
東部線・北部線		16	15 (前年比0.93倍)	未達成

【目標達成状況の考察】

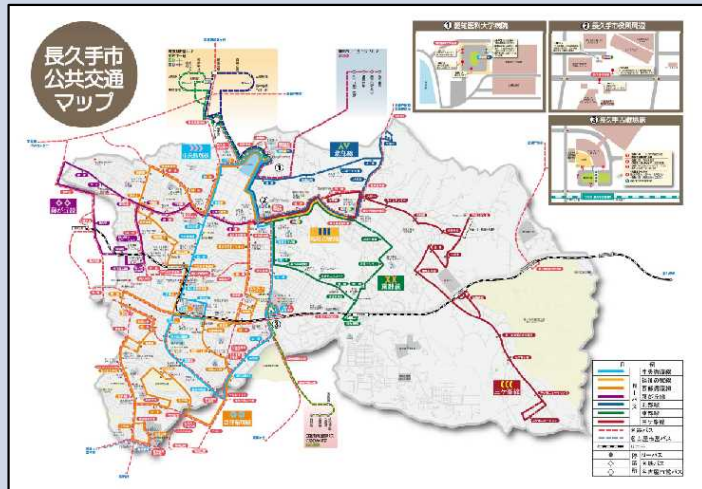
- 生活交通確保維持改善計画におけるフィーダー系統は目標を達成。
- 増加度合いの大きい路線は、中央循環線となっており、長久手古戦場駅前でのイオンモール長久手の開店が影響。
- 福祉の家線が未達成となった要因は、平成28年4月から、1日16便の運行から12便の運行とした影響が見られるが、1便あたりの利用者数は微増傾向。
H27.10～H28.9 4.5人/便
H28.10～H29.9 4.7人/便

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（計画推進に係る事業）

実施事業

評価

公共交通マップの作成

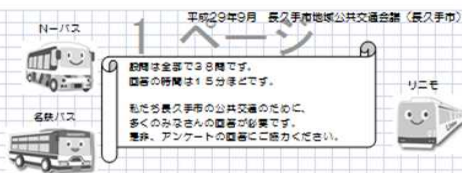


- ・これまで作成したことがなかった市内すべての公共交通を網羅した公共交通マップを平成29年12月に発行。
- ・交通結節点、大型商業施設、市内公共施設に設置したほか、自治会回覧や市HPで周知。
- ・市民から好評のため、A3版のマップを追加で印刷し、窓口（長久手市経営企画課）で配布。

公共交通利用実態調査（公共交通市民アンケート調査）

長久手市の公共交通に関する市民アンケート調査
ご協力をお願い

日ごろから市政の推進に格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
本市では、より便利な公共交通の実現を目指して、平成28年に『長久手市地域公共交通網形成計画』を策定し、Nーバス路線を見直しました。また、この計画に基づき、様々な取組を実施しているところです。
このたび、Nーバスをはじめとする市内の公共交通について、市民のみならずご意見を伺いたい、さらに使いやすい公共交通にしていくため、アンケート調査を行うこととなりました。
本調査は、無作為に選ばれた中学生以上の市民4,000人を対象に、公共交通に関するみなさまのお考えやご意見をお聞きするものです。調査の主旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。
なお、アンケートでご回答いただきました内容については、統計的に処理します。みなさまの個人情報が外部に漏洩することは一切ございません。



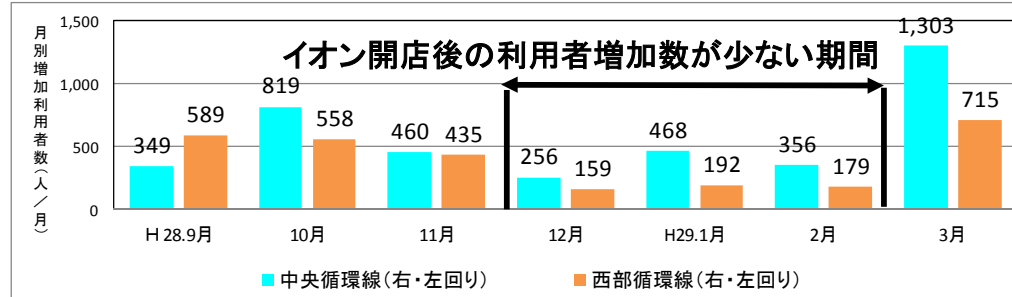
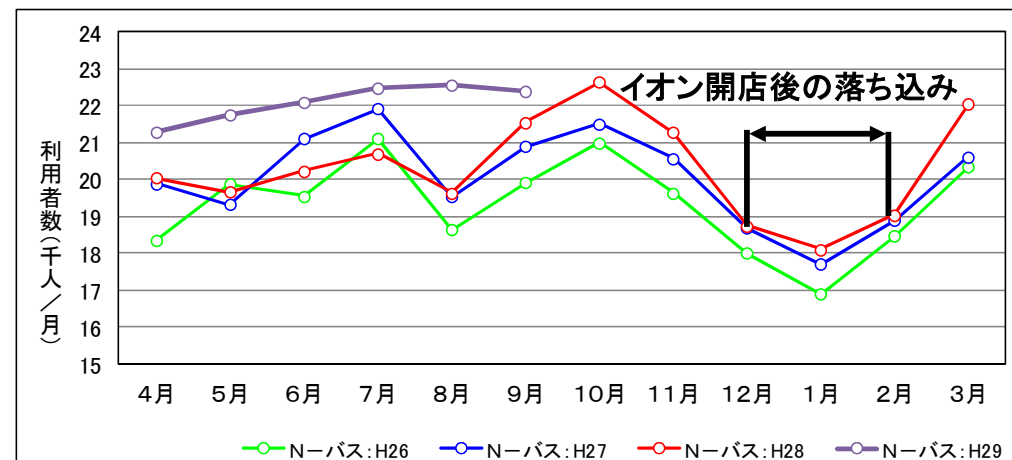
- ・平成29年9月に実施した公共交通市民アンケート調査では、リマインド葉書を送付した結果、回収率は平成25年度に実施時の35.4%から50.1%に向上。
- ・今後はアンケート結果を分析し、形成計画の評価及び次期形成計画に反映。
- ・平成27年度及び平成28年度に実施した公共交通ネットワーク調査研究会での検討テーマ「高齢者などの交通弱者への公共交通移動」を踏まえた質問を盛り込み、バス停までの徒歩移動が困難で外出を控えている割合を把握。

1 大型商業施設の出店に伴う渋滞の課題

- Nーバス利用者は、平成28年9～11月は前年同月より多い利用であったが、イオンモール長久手開店後の平成28年12月～平成29年2月までは前年同月と同程度になり、渋滞が落ち着いた平成29年3月以降から増加傾向。
- Nーバスの路線の中でも、イオンモール長久手付近を通過する中央循環線と西部循環線の利用者数は、平成28年12月～平成29年2月は前年同月に比べ利用者増加数の減少。
- イオンモール長久手による渋滞が落ち着くまでの間、一部の名鉄バス路線において、長久手古戦場駅を通過する措置がとられ、利便性が低下。

2 Nーバス一部路線の利用者減少

- 福祉の家線、東部線、北部線の3路線において前年比で利用者が減少。
- いずれの路線とも、イオンモール長久手等の大型商業施設に行くためには乗継ぎが必要のため、利用者から不満の声。
- 東部線、北部線においては、便数の少なさが利用者から指摘。



今後の方針

- 渋滞による遅延が続くと、公共交通に対する利用者離れが想定されるため、リニモ利用者へのインセンティブ付与等の渋滞対策を今後も継続。
- 市民アンケート調査をもとに分布状況や移動ニーズ等を分析し、本市の特性に合った公共交通体系のあり方を検討。
- 東部線・北部線については、平成28年4月から導入したワンボックス車両で運行する路線のため、近隣住民への周知を強化。

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

長久手市地域公共交通会議

平成20年11月25日設置

フィーダー系統 平成29年8月 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>平成29年10月の大型店舗オープンに向けた遅延対策及びオープン後の対応</p>	<p>公共交通への転換を図るため、パーク&ライド駐車場を県と連携して整備、大型商業施設と連携したリニモ来店者へのインセンティブ付与に向けた調整。</p> <p>長久手市地域公共交通会議にて、市民利用者及び各交通事業者との意見交換を実施。</p>	<p>大型商業施設の渋滞は、土日や特売日などの日において、今後も想定されるため、渋滞軽減に向けた取組を継続。</p> <p>引き続き、地域公共交通会議内での意見交換を実施し、課題共有及び対応に向けた解決策を検討。</p>
<p>民間バス事業者と連携した交通結節点を乗継拠点とした南北広域幹線軸の構築検討</p> <p>近隣市町との連携による利便性の高い公共交通ネットワーク構築の期待</p>	<p>H29.4 愛知医科大学バスターミナル整備及び民間バスの新規路線を新設。</p> <p>H29.11 尾三地区関係市町と連携し、南北広域幹線軸の形成に向け、アンケート調査を実施。</p>	<p>平成29年に実施した尾三地区内の住民及び拠点施設のアンケート結果を踏まえ、尾三地区広域公共交通網を検討。</p> <p>Google路線検索を可能とする尾三地区内バスデータのGTF S化を実施。</p>
<p>【計画推進事業の評価】</p> <p>地域住民が主体となった利用促進策実施の評価、さらなる利用促進策の期待</p>	<p>H29.6、H29.11 公共交通応援隊と協働した利用促進活動を実施。</p> <p>H29.9 公共交通アンケートを実施。</p> <p>H29.12 乗継ぎに対応した市内公共交通マップを発行。</p>	<p>H29.11に作成したN-バス応援ソングを活用した新たな利用促進策を検討。</p> <p>アンケート結果を分析し、公共交通体系のあり方を検討。</p> <p>公共交通マップは、順次更新を行い、引き続き周知。</p>

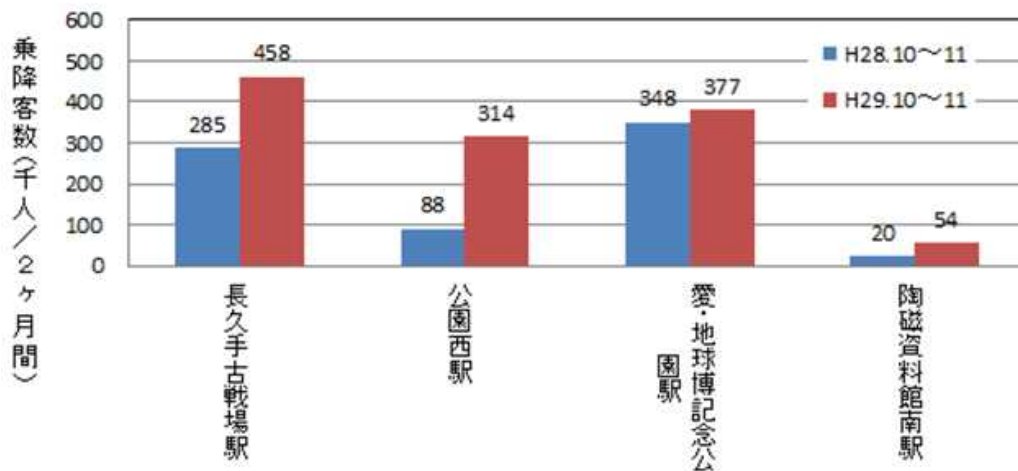
1 渋滞対策による自動車利用から公共交通への転換の促進

(1) リニモ陶磁資料館南駅北側に整備したパーク&ライド駐車場の効果

- ・期間限定でのパーク&ライド駐車場の設置により、陶磁資料館南駅の利用者数は、平成28年度の同月(10月・11月)と比較すると270%の増加。

(2) 大型商業施設や周辺施設等と連携したリニモ利用者へのインセンティブ付与

- ・インセンティブの付与に関わるリニモ駅の利用者数は、平成28年度の同月(10月・11月)と比較すると、大型商業施設が隣接する長久手古戦場駅は161%、公園西駅は357%、モリコロ・パークが隣接する愛・地球博記念公園駅で108%増加。



2 市民主体の利用促進事業の定着

- ・平成27年から活動を開始した公共交通応援隊では、市民が主体となって積極的な活動を展開し、公共交通の利用促進及び認知度向上の一翼を担う。



※N-バス応援ソングを市民まつりで披露する様子

3 広域公共交通網形成に向けた検討

- ・平成29年7月に尾三地区の4市1町(豊明市、日進市、長久手市、みよし市、東郷町)による尾三地区広域公共交通推進協議会を設置。
- ・尾三地区の南北広域公共交通網の検討のため、尾三地区における住民アンケート及び拠点施設調査を実施。

4 公共交通会議で情報及び課題を共有

- ・各交通事業者の協力のもと、公共交通会議で、各公共交通の利用実績(速報)を報告。
- ・市民委員を中心に意見をいただき、市内公共交通に対する課題を共有し、解決に向けて意見を交換。